

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801450		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	アミライフ・東住吉 第①ユニット		
所在地	大阪市東住吉区住道矢田6丁目2-24		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果市町村受理日	平成23年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770801450&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770801450&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年2月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

7月21日より管理者交代で新体制でのスタートになり職員も大幅に入れ替えがあり、今まだ発展途上の段階です。「笑顔」「信愛」「憩い」の3つの理念のもと旧体制からの目標「人と人のお付き合い」を引継ぎ柱とし、アットホームで明るく心地良い空間を提供できればと思っています。常に入居者さんの立場に立った介護ができるよう。寄り添う介護を目指し少しでも自立支援の手助けができるよう頑張っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔・信愛・憩いを理念に据え、家庭的な雰囲気や自然な生活が、利用者の方々であるように心がけ支援を展開しています。常に目を利用者に向けて明るく居心地のいい空間づくりを行い、管理者は職員と共に話し合いを繰り返し、常に利用者の立場に立った支援、心が温まるようなグループホームを目指しています。特に排泄の自立には積極的に取り組まれ、必要に応じ家族に説明し協力を得ながら出来る限り布パンツに変更できるように努力しています。トイレ誘導に関しても利用者一人ひとりの行動や、しぐさのサインを見逃さずに排泄パターンを把握し自立に向けての支援を行っています。管理者と職員の関係がよく、今後も力を合わせ、温かみのある寄り添う介護を目指し、研修を計画的に行うなど新たな企画のなかでスキルアップに努めているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔」「信愛」「憩い」を3つの理念とし「人と人のお付き合い」を大切に考えている。また、「なぜ？」を考え「思い」に気づき、「その人らしい生活」ができるようなグループホームを目指している。	事業所では法人の理念の基に、「人と人のお付き合い」を理念として定めています。地域との付き合いもまた人との関わりと位置づけ大切にしています。今後もより一層交流を深めていきたいと考えています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会主催の「敬老会」、「盆踊り」に参加している。	老人会より案内が届き、行事に積極的に参加し地域交流を楽しんでいます。近隣の学校の実習生の受け入れや、障がい者施設に散歩の途中に立寄るなど日常的に関わりを深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を積み上げている段階である。近隣の短期大学からの実習生を受け入れている。又近隣の知的障害施設の行事にも参加させてもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、毎月のサービスの内容、行事などを報告し評価を受けている。又情報交換の場としている。	法人の他のグループホームと合同で運営推進会議を2ヶ月に1度行っています。参加者も多く、町会長から地域情報を得たり、意見や質疑があるなど活発な会議となっています。出席者から意見が出されその場で検討されたりしており、地域行事への参加などサービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会、地域包括センターなどを通じ、相談をしながら、協力関係を築いている。	書類申請などで行政の窓口定期的に足を運び、情報を共有しています。また、相談や今後の取り組みなど、協力関係を築くよう努力しています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束について知識を深めるよう話し合いの場を持っている。又、玄関は防犯上施錠しているが、各ユニットの玄関は行き来が自由にできるように配慮している。基本的に身体拘束はしていない。	身体拘束についてミーティングなどで話し合い、見かけたときにはその場で話し合うようにしています。各ユニットは施錠せずユニット間を利用者が自由に行き来できる状態です。玄関は防犯上施錠していますが、利用者の行動を観て同行するなどの支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に管理者は職員、利用者にも目を配り気になる職員には個別に指導もしている。虐待の報告は受けていない。		

アミライフ東住吉(①ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大阪市社会福祉協議会の「あんしんさぽーと」のスタッフに相談しながら支援するケースもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時には書類を提示しながら説明を行っており、特に重要な箇所には時間をかけて補足している。不明な点は電話での問い合わせにも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回ある大きな行事には家族への参加呼びかけをし、多数の家族が来訪され、同時に意見、要望を聞くようにしている。又常の来訪時には、こちらから積極的に声をかけ、意見交換の場を設けている。玄関には意見箱を設けている。	多数の家族が集まる行事の開催時などには、意見交換の時間を作り意見を聞くようにしています。意見が出にくい状況もあり、事業所ではアンケートを取って意見を聴く機会を作っています。	家族アンケートを実施し回収の途中にあります。出された意見や要望などを家族に伝え、より良い家族との信頼関係に繋がる機会になることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を月に一度行っており、そこでの意見を拾い上げ実践に生かしている。又次の会議では前回の反省点、改善点を報告している。会議の議題はスタッフ間で話し合い決めている。	毎月行われている全体会議では、司会や書記を職員が持ち回りで行い、職員のスキルアップと意見を言いやすい状況作りと考え開催しています。職員からは積極的に意見があり、日々のケアに反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の長所を認めてあげ、自分らしい介護ができるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加するよう指導し、足りない部分や問題を抱えている職員には、それに合った研修に参加するよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度、テーマを決めて他の事業所と持ち回りで勉強会を設けて取り組んでいる。		

アミライフ東住吉(①ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活してきた歴史に配慮しながら、家族をはじめ、本人ともコミュニケーションを図り、困っていること、不安に思うことなどを表現できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面談などで状況を伝えると共に、不安や思いを早い段階で訊くようにし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ、できる範囲での対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に一方的な介護ではなく、「寄りそう介護」を目指して時には一緒に将棋をさしたり、歌を歌ったり、昔話に耳を傾けたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、友達などの訪問があった際には、必ずお茶を出し言葉を添えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からのなじみの物は家族に協力してもらい居室へ持ち込んで癒しの空間を作り、趣味のものもできるだけ持参してもらい落ち着ける環境づくりに努めている。	友人の来訪時はホームで楽しく過ごせるよう雰囲気作りをしています。また、希望により電話の取次ぎなど今までの関係作りの継続の支援をしています。外出等も必要であれば家族に理解を求め実現を図っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況に応じ、仲介に入ったり、その場が和やかな雰囲気になるよう努めている。又、2ユニットの利便性を利用して、気分転換を図るためにも行ったり来たりできるよう配慮している。		

アミライフ東住吉(①ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに退居された方のご家族からのご挨拶やお電話を頂くことがある。又、入院された方に対しても、可能な限りお見舞いに行くなど、これまでの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者との会話の中で今何を求めているかを把握できるよう努力している。	入居時に家族から情報を得て、生活歴や困っていることなど詳しく聞き取りを行っています。また可能な限り本人からも希望を聞き記録しています。困難な場合は会話の中や、しぐさなどで把握できるように努力しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族とのコミュニケーションから、これまでの生活背景や経緯などを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り(朝のミーティング)で利用者の変化に対しての情報の共有を図っている。又個人の生活記録に詳細に記入することにより、より詳しい情報がわかるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体会議で、気になる利用者に対しては個別のケアカンファレンスを行っている。又ご家族に対しては常に連絡を取り意見交換している。毎日のスタッフの交代時に申し送りをしケアカンファレンスにつなげている。	本人や家族の意向を基にケアプラン作成しています。毎月の全体会議や日々の生活の中で職員の意見を取り入れています。3カ月ごとにモニタリングを行い、変化がなければ6ヶ月毎に見直しを行っています。必要に応じて提携医や看護師に相談し機能訓練を取り入れるなど意見を反映してケアプランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアや本人の様子を介護記録として残し情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、できる範囲で支援に努めている。		

アミライフ東住吉(①ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じ、できる範囲で支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時よりかかりつけ医を持っておられる場合は希望に添えるよう支援し、受診時には希望があれば付き添いをしている。	入居前よりのかかりつけ医の継続も課のであることを伝え希望を伺いかかりつけ医を決めています。受診は家族の対応が基本となっていますが、希望があれば職員が付き添いをしています。法人の医師から2週間に1度の往診があり 看護師は毎週訪問があり安心の体制が築かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の来訪時には、一緒に訪室し、一週間の体調の変化を伝えている。又職員に対しての日々のケアの指導もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き本人の状態をご家族、主治医との連絡調整を行っている。又、職員も可能な限り面会に行き、本人の支えになるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や看取りの指針は説明している。家族との話し合いは常に現場職員が戸惑う事の無いよう対応している。	入所時に家族に看取りについてホームの出来ることを伝えていきます。看取りの経験もあり、法人の病院と連携をとり状況の変化に応じ常に話し合いを行っています。重度化の過程では家族を含めて医師との三者で話し合い、今後に向け方針の共有を図っています。職員には、看取りについて取り組みを説明し体制の充実を図っていきたくと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルの確認をするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の立会いのもとに避難訓練、消火訓練を実施している。今年は夜間を想定して行いました。運営推進会議でも話題にし、協力を呼びかけました。	年2回の訓練では消防署立会いで夜間想定で行い、自主訓練は日中想定で実施しています。運営推進会議では消防訓練の報告を行っています	運営推進会議での報告のみならず、近隣の住人に向けた訓練のお知らせなども伝えていかれては如何でしょうか。

アミライフ東住吉(①ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気をつけ、温かみのある言葉を使うよう心掛けている。職員間で不快に思うような言動があるときはお互いに注意しあうよう指導している。	一人ひとりの尊厳が大切であることを日々の業務の中で職員に伝えていきます。気付いたときにはお互いに注意し合い人格を尊重した対応をしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が伝えたいことは何なのか常に考えながら接するよう努めている。新入社員の中には自分本位になりがちな傾向もあるので指導もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員には業務優先にしないよう常に注意をしているが、なかなか徹底しない。つつい業務に時間を使い利用者に対して気持ちが向いていない職員もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の理美容を利用している。又、服装などは本人と話をしながら選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は常に利用者と一緒にしているが、特定の利用者(2.3名)に限られている感がある。	食材は業者に発注していますが、おやつ 朝食は希望を聞きつつ買い物に出かけています。嫌いな食材等のある方には別メニューで対応を行い、準備が得意な利用者と一緒に料理を楽しんでいます。年に1度は希望を聞き外食をしています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、毎日届く業者からの栄養士により管理されているが、体調に応じて変更する場合もある。水分補給は常に気を配っており、朝の申し送りでは水分量も報告してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはできる方は見守りで介助の必要な方は付いて毎食後介助している。歯科の方からの口腔指導も受けている。		

アミライフ東住吉(①ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンの把握に努め、排泄の声かけや誘導を行っている。常にオムツやパットを付けっぱなしにするのではなく、夜間のみ使用するなど、その方に応じた対応をしている。	トイレ誘導の時間を決めてしまうのではなく、行動しぐさでサインを見逃さず、さりげなく声かけを行い個々の排泄パターンに沿って支援をしています。又、自立に向けた布パンツへの変更を家族に説明し、協力を得ながら支援に向けて積極的に取り組んでいます	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の個人の生活記録で確認できるようにし、朝の申し送りでは前日までの排便を報告してもらっている。なるべく朝の朝食で、ヨーグルトをつけたり、運動、腹部マッサージをしたり、して自然排便に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に最低2回は入浴するよう努めている。中には毎回拒否をされる方もおられ、なかなか思うようには行かないのが現状です。拒否があるときは他の職員が替わって対応するなどしている。	一番風呂を希望される利用者には、朝からの入浴を支援するなど希望に応じています。拒否傾向の利用者には、職員を変えて対応するなど、できる限りスムーズな入浴に向けて努力しています。又、季節に応じ、ゆず湯、入浴剤を使用したり、音楽をかけるなど、楽しんで入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転されておられる方もいて、夜間にフロアに出てこられるときもあるが、夜勤者は手を止めソファでゆっくりとお話をきくこともある。日中帯の過ごし方も職員間で話し合っており、散歩、レクリエーションなども積極的に取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容は個人記録にわかりやすく個別にファイルしてあるので、確認できる状態にしている。副作用などについては変更があるたびに申し送りで伝えるようにしているがまだ徹底できてない職員もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の性格、趣味、嗜好などをなるべく把握してその人に合った役割、生きがいを持てるよう支援している。又、趣味の時間に集中できるよう職員も一緒に行う事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望にはなるべく添えるよう支援している。散歩は暖かい日にはおやつを持参して近所の公園に出かけたり、行事としてお花見、外食、足湯、近隣のグループホームでの夏祭り、地域の敬老会などに参加している。	気候のいい時は近くの公園を毎日散歩し、季節の変化を感じたり、気分転換をしています。また、個別の対応として希望に添い喫茶店に行くなど、職員が付き添い外出を楽しまれています。近くのグループホームを訪問したり、花見や外食など、機会を見つけて外出の支援をしています。	



アミライフ東住吉(①ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持で、安心される方には、ご家族の理解のもと、ご自分で管理されておられる。買い物に同行した場合は残金の管理が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族と電話したいと希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように季節のものを目に留まる場所に置くようにしている。夏は朝顔を植えたり、フロアには金魚も飼っており、えさやりを日課にされておられる方もおられる。又朝には空気の入替えをし新鮮な気持ちで一日の始まりを送っていただけるよう支援している。	日当たりもよく、空気の入替えも適時行い、季節を肌で感じる事ができ、利用者は日中殆んどリビングで過ごされています。冬場の対応として加湿器を設置し居心地のよい空間を作っています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには木製のベンチを置き、めいめい好きな場所でのんびりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別に宿泊できる部屋は用意していない。居室にはご本人の好きな物を持ってきていただくよう説明している。写真や信仰している物を置いておられる方もいる。	居室には、ホーム設置のタンスとベッド 洗面所があります。利用者の好きな芸能人の写真を飾るなど、一人ひとりにあった居室にし安心できる空間を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内や廊下の壁側などに手摺を設置しており、身体機能を活かすことができるようにしている。又一人ひとりの「できること」「わかること」の把握に努め、さりげないサポートを心がけている。		